

件名	1号機の定検状況（漏えい燃料集合体の特定）について
通報日	平成17年6月22日
概要	<p>1号機は、定格熱出力一定運転中の平成17年4月26日、放射線監視モニタ^{*1}および排気筒モニタ^{*2}の指示値に変動はなく外部への放射能の影響はありませんでしたが、排ガス系の高感度オフガスモニタ^{*3}の指示値にわずかな上昇傾向が確認され、燃料集合体の一部からの微小な漏えいの可能性が考えられたことから、6月14日から開始した定期検査において、漏えい燃料集合体の特定のための調査^{*4}を行うこととしておりました。</p> <p>6月21日、22日の両日にわたり同調査を行った結果、漏えい燃料集合体1体を確認いたしました。今後、当該燃料集合体を健全なものに取り替えることといたします。</p> <p>*1：放射線監視モニタ 復水器と活性炭式希ガスホールドアップ塔の間に設置されており、復水器から抽出されたガスには、極微量の放射性物質が含まれているので、その放射線を監視するための機器です。</p> <p>*2：排気筒モニタ 発電所から外部に排気する空気中に希ガス状の放射性物質が含まれているかどうかを監視するとともに、放射性物質が含まれている場合には、その濃度を測定するものです。</p> <p>*3：高感度オフガスモニタ 燃料棒からの微小漏えいを早期に発見する目的で補助的に設置されたものであり、通常の排ガス系の監視は、これとは別に設置されている放射線監視モニタにより監視しております。</p> <p>*4：漏えい燃料集合体の特定のための調査 燃料集合体を炉内装荷位置から燃料交換機により上昇させると、水圧が下がることにより、燃料に破損がある場合は放射性希ガスが炉水中に放出されます。この炉水を採取し、放射性希ガスの放射能を測定して、漏えい燃料か健全燃料かを判定します。</p> <p>（平成17年6月23日 プレス発表内容） http://www.tepco.co.jp/kk-np/nuclear/pdf/17062301.pdf</p>